CREATE A NEW VISION
OMOI おもい
YUKEN GROUP VISION 2030

YUKEN
Living with Hydraulics

YUKENグループ

サステナビリティ方針
進捗報告および今後の取り組み

2025年9月18日
（2026年９月17日一部改定）

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

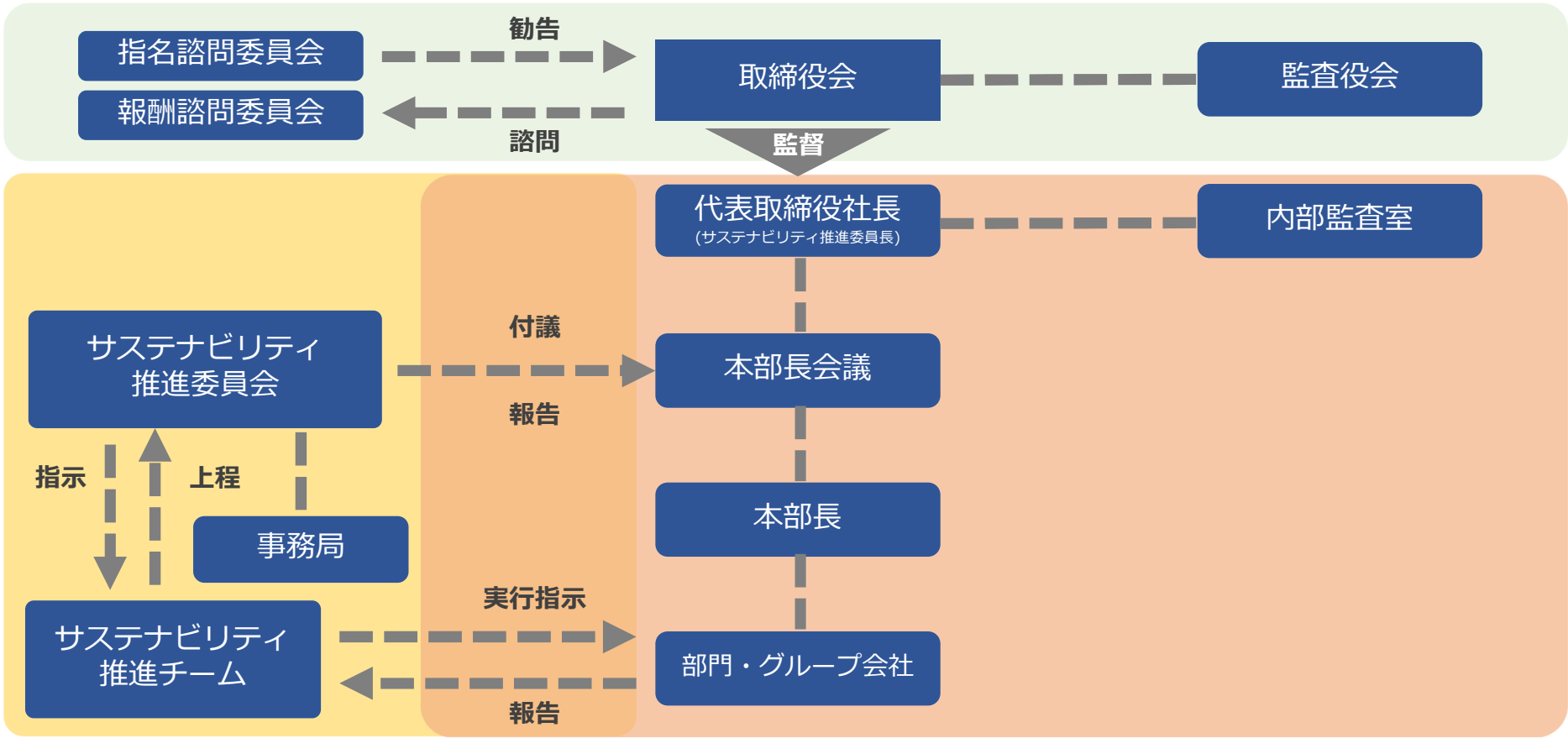
1．サステナビリティ推進

サステナビリティ推進

私達、油研グループは2022年より「サステナビリティ方針」を策定し、サステナビリティ推進委員会において油研グループにおける課題を議論し、サステナビリティ推進チームを筆頭に全社一丸となって課題解決に取り組んでおります。当社サステナビリティの推進体制は以下のとおりです。

※サステナビリティ方針については、当社ホームページをご参照願います。（https://www.yuken.co.jp/sustainability）

サステナビリティ推進体制



Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題

YUKEN
Living with Hydraulics

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

製品による環境貢献
- 製品固有のエネルギー効率の向上
- 環境保全・省資源に資する製品の拡販

事業活動による環境負荷低減
- 温室効果ガス低減
- 化学物質の管理徹底
- 事業におけるエネルギー使用低減
- 環境負荷物質の排出削減

S　人財が集まる魅力的な企業を目指す

人を大切に
- 人財移動加速による労働力不足の解消
- 人財を育てる体制
- 健康を維持する体制
- 職場の安全衛生
- 人権の尊重

多様な働き方の推進
- 人財を集める魅力

社会貢献
- 油圧技術の普及

安心安全な社会へ
- 安全なもの（製品）づくり

地域社会との係わり
- 地域貢献活動の推進

G　透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

グローバル企業への変換
- 真のグローバル企業への変換に向けた体制
- 生産国ごとに認識された品質・価格格差の是正
- 熟練者不足による品質（管理）低下の歯止め
- 確固なサプライチェーンの構築

企業価値の向上
- 誠実で公正な事業活動
- 情報セキュリティ、個人情報保護の維持
- コーポレートガバナンスの維持向上

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み（2022～2024）

YUKEN
Living with Hydraulics

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

製品による環境貢献 製品固有のエネルギー効率の向上	→	電磁弁・ピストンポンプ等、省エネ製品の開発
事業活動による環境負荷低減 温室効果ガス低減	→	電気使用量の削減、太陽光発電の導入、非化石証書の活用
化学物質の管理徹底	→	毒性の特に高い化学物質の使用禁止
事業におけるエネルギー使用低減	→	省エネ設備導入、太陽光発電の導入、運用改善によるムダ削減

S　人財が集まる魅力的な企業を目指す

多様な働き方の推進 人財を集める魅力	→	海外拠点間の人財交流拡大
		女性活躍、多様な働き方の推進
人を大切に 人財を育てる体制	→	階層別研修・選抜研修の実施
人権の尊重	→	人権方針の制定・教育、人権デューデリジェンスの実施

G　透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

グローバル企業への変換 真のグローバル企業への変換に向けた体制	→	グローバル化に資する人財の出向、グループ会社業務の支援
企業価値の向上 誠実で公正な事業活動	→	コンプライアンス教育の実施
情報セキュリティ、個人情報保護の維持	→	サイバー攻撃に対する対応強化、情報管理体制の強化

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み【トピックス】(2022～2024)

YUKEN Living with Hydraulics

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

事業活動による環境負荷低減 温室効果ガス低減	電気使用量の削減、太陽光発電の導入、非化石証書の活用
事業におけるエネルギー使用低減	省エネ設備導入、太陽光発電の導入、運用改善によるムダ削減

数値目標：2021年度CO2排出量から10%削減

	CO2排出量（t -CO2）※	対21年度比	電力使用量（kWh）	対21年度比
2021年度	9,422	-	17,099,219	-
2024年度	8,389	89%	16,829,164	98%

※　日本国内は「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき算出、海外はIEA（国際エネルギー機関）のCO2排出係数に基づく当社試算

1. 日本国内を中心に、省エネ性能の高い機器への更新（変電設備、コンプレッサー、エアコン、LED照明等）や運用改善（配管エア漏れ改修、蒸気配管保温等）を実施
2. 日本国内および台湾油研において、21年度比で電力使用量△10～20%となるも、ユケン・インディアでは業容拡大に伴い電力使用量が21年度比で倍増
3. グループ全体での電力使用量は、21年度比で微減（△2%）
4. CO2排出量削減は、油研張家港で太陽光発電導入（△約30%）、日本国内で非化石証書購入（△約26%）により、**グループ全体で△11%**

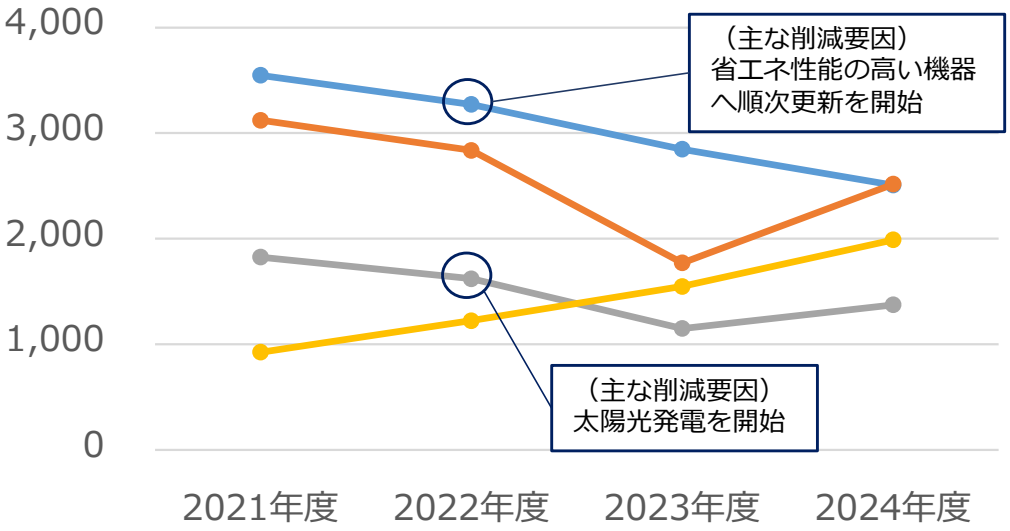
Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み【トピックス】(2022~2024)

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

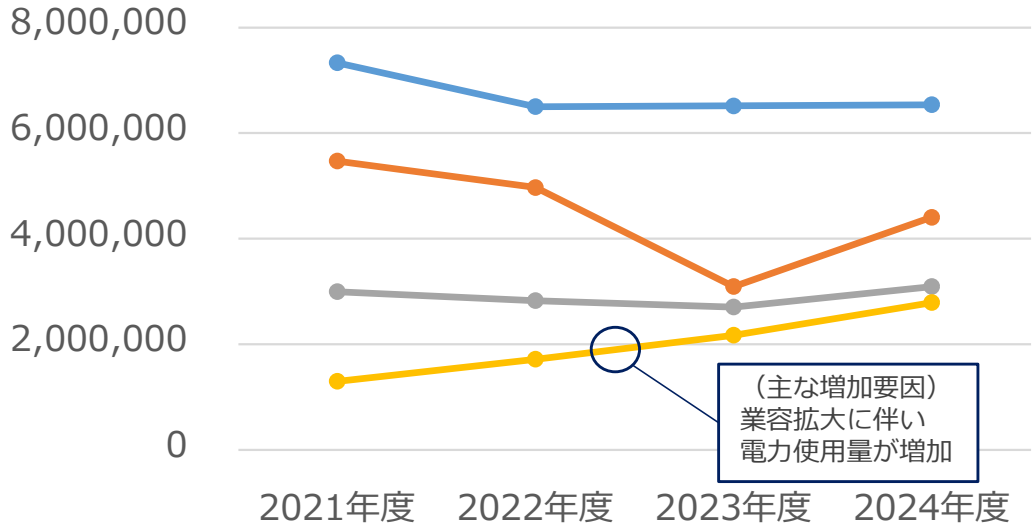
主要拠点のCO2排出量の推移

単位：t-CO2



主要拠点の電力使用料の推移

単位：kWh



（ご参考）

油研液压工業（張家港）有限公司　太陽光発電パネル

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み【トピックス】(2022～2024)

YUKEN Living with Hydraulics

S 人財が集まる魅力的な企業を目指す

多様な働き方の推進
人財を集める魅力 → 海外拠点間の人財交流拡大

数値目標：海外拠点間の人財交流拡大…20%UP

	出向（人）	研修（人）	子会社支援長期出張（人）	計	対19年度比
2019年度※	21	0	0	21	–
2024年度	20	6	5	31	148%

※2021年度はコロナ禍により交流が出来なかったことから、2019年度との比較

1. グループ経営基盤構築のため、子会社経営や課題解決に適した人財を海外に出向・派遣
2. 同時に、海外からの研修受け入れによるグループ全体の技術力向上の推進
3. 成長著しいインドグループ会社へは、特に人的支援を強化
4. 人財交流20%UPの目標に対しては、研修・技術支援の実施により+48%に

人権の尊重 → 人権方針の制定・教育、人権デューデリジェンスの実施

1. グループ人権方針を制定（2024年2月）しグループ全社に周知、当社ホームページに掲載
2. 人権デューデリジェンスをグループ内および日本国内の協力企業に実施

   ⇒特に重要と考える13項目についてアンケートを実施
   平均点（100点満点）は、グループ会社で87点、協力企業で84.2点となり、良好な状況を確認
3. 今後もグループ内での教育実施や、協力企業への啓発、取組状況の確認を継続

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み【トピックス】(2022～2024)

YUKEN Living with Hydraulics

G　透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

企業価値の向上
情報セキュリティ　⇒　**サイバー攻撃に対する対応強化**

1 外部機関による「IPAセキュリティ診断」を実施し、緊急性・重要度に応じて、順次対策を実施

⇒　【対策例】　①システム面
- ■サーバーバックアップ環境の強化
- ■社内ネットワークへの不正接続防止環境構築
- ■社内ネットワークへの侵入制限の徹底
- ■ウイルス対策の最新状態保持
- ■メール誤送信防止機能の導入

②運用面
- ■施錠管理ルールの厳格化
- ■来場者管理の徹底
- ■可搬媒体の運用見直し
- ■最新セキュティ対策情報の適時配信
- ■標的型メール対応訓練
- ■情報セキュリティ向上教育の継続実施
- ■外部コンサルタントとの連携強化

2 上記取組みにより、「IPAセキュリティ診断」点数が20Pアップ（2022年度比）

企業価値の向上
個人情報保護の維持　⇒　**情報管理体制の強化**

1 個人情報保護の維持および向上にむけた施策を立案し、順次対策を実施

⇒　【対策例】
- ■個人情報保護方針の策定および公表
- ■グループ会社への周知・徹底
- ■従業員情報の取扱いの厳格化

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

2. サステナビリティ課題への主な取り組み【総括】(2022~2024)

YUKEN
Living with Hydraulics

各取り組みへの総括

- サステナビリティ課題の解決に向けて、各部門業務計画やサステナビリティ推進チームの活動で対応を推進
- 取組み状況は、業務計画のレビューやサステナビリティ推進委員会で確認、適宜評価し必要な指示を実施
- 「E・S・G」における各課題については概ね計画どおり対応を実施し、日常的な活動に落とし込まれている
- 2025年度以降も、ESG経営に継続して取組み、一層の企業価値向上に取り組む

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

3. 今後の取り組み【ＥＳＧ経営の継続】

YUKEN
Living with Hydraulics

ESG経営の継続

当社が創業当初より掲げる経営理念『油圧と共に生きる』はまさに持続可能な油圧技術および事業の発展・継続を表現しております。この経営理念と2030年までの長期ビジョンに基づき、事業が及ぼすリスクとSDGsの関係性をサスティナビティ推進委員会で議論・検討を重ね、SDGs達成に貢献できる目標を設定しています。

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

消費を減らす　廃棄物を減らす　環境負荷物質を減らす

S　人財が集まる魅力的な企業を目指す

ダイバーシティの推進　人財の育成および体制の強化　地域・社会・世界への貢献

G　透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

管理監督機能の強化　連携力の強化

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

3. 今後の取り組み【主な活動】（2025～2027）

E　モノづくりと事業活動で地球環境を護る

消費を減らす　廃棄物を減らす　環境負荷物質を減らす

事業活動による環境負荷低減 **温室効果ガス低減**	**CO2排出量30%削減** **（ユケン・インディアを除くグループ製造拠点合計、2021年度比）** ※成長著しいユケン・インディアについては、原単位管理とするなど適切な方法を設定し、2028年度より目標管理を致します。
事業活動による環境負荷低減 **環境に配慮した事業活動**	**大流量・低圧損製品の開発継続、省エネ搭載商品の販売強化**
事業活動による環境負荷低減 **積極的な環境投資**	**環境投資1億円（暫定値）の実行**

S　人財が集まる魅力的な企業を目指す

ダイバーシティの推進　人財の育成および体制の強化　地域・社会・世界への貢献

人を大切に **人財を育てる体制**	**グループ間の連携強化に向けたグローバル人財育成**
人を大切に **人権の尊重**	**人権教育の実施、人権に対する取組状況の継続確認・啓発、多様化の推進**
グローバル企業への変換 **グローバルサプライチェーンの活用**	**最適生産分担とグループ内調達の推進**

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.

3. 今後の取り組み【主な活動】（2025～2027）

YUKEN Living with Hydraulics

G 透明性・蓋然性・責任性を高めステークホルダーからの高い信頼性を獲得する

管理監督機能の強化　連携力の強化

グローバル企業への変換 グループガバナンスの強化	→	社外役員の知見を活かした透明性の高い経営と、グループ経営管理の強化
グローバル企業への変換 グループ製造品質向上	→	グローバル品質管理体制の整備による、グループ製品品質の均質化
企業価値の向上 グループリスクマネジメント	→	情報セキュリティ体制の維持強化により、重大なサイバーセキュリティインシデント発生0に

2028年３月期までのサステナビリティ推進方針

- 「油圧と共に生きる」を経営理念に、グローバルサプライヤーとして産業の発展に貢献し続けることを目指す
- ＥＳＧ課題を中期経営計画および年度経営計画に落し込み、油研グループの共通課題としてサステナビリティ推進意識を浸透
- 推進状況は、業務計画のレビューやサステナビリティ推進委員会で確認、適宜評価し、必要な判断を行う

Copyright @ YUKEN KOGYO CO.,LTD.
12